

LANI・CAFÉ

だより



November 2017

2017年11月号

三浦孝 山中哲夫 ジョイントコンサート

ランゲージ・カフェ特別版「英語の歌、フランス語の歌」

11月2日(木) 3限 (13:20 - 14:50)
於 3号館ランゲージ・カフェ



中尾 今日は、来月2日に行われる三浦孝 山中哲夫 ジョイントコンサート「英語の歌、フランス語の歌」のご案内をいたしたいと思います。愛大豊橋に授業で歌われる先生が二名ほどいらっしゃるとうわさを聞きつけて、ご両名に白羽の矢を立てて実現した、豊橋キャンパス始まって以来の画期的なイベントです。三浦先生はカントリーを主に歌っておいでということですが…。

三浦 はい。ブラザーズ・フォーの曲を中心にずっと歌ってきました。カントリーということで、中西部をはじめとするディープなアメリカを描いた曲目であり、そこには、大自然、故郷というテーマが見られます。

中尾 今回、先生の方から Home というテーマを出されましたので、いろいろこのグループの曲を見てみたのですが、その中で、ニューオーリンズのホームのことをうたったものがあつたので、真っ先に取り上げさせていただきました。

三浦 どうして、また、ニューオーリンズなんですか？

中尾 ニューオーリンズをはじめとするルイジアナは、旧フランスの植民地で、今回のテーマにひっかかってくるかもしれないと思ったからです。アメリカにしては、少し疲れたような、貧困やどうしようもなさがあつて、シャンソンの世界と通じるところがある。

三浦 それはあまりカントリー的とは言えないんですが、ニューオーリンズはブルース発祥の地です。

中尾 少年はニューオーリンズの house of Rising Sun にいたとあります。

三浦 オリジナルでは、少年は少女で、「旭日館」は娼館です。いずれにしても、墮落してしきった自分の生き方を悔いる歌ですが、こんな暗い自墮落な歌が大ヒットするのも、歌の面白さでしょう。「思い出のグリーングラス」(Green Green Grass of Home)の原曲も、実は死刑執行を待つ囚人の歌です。どんな人間の中にも、墮落した人生に共感する心が潜んでいるのでしよう。

中尾 今回、この曲に対しては、L' étranger (異邦人) という曲をぶつけてみたんですが、フランスの場合、都会に出たら戻らない。そこで、都会人の孤独をまとい、群衆のひとりとなって、見知らぬ人と行きずりの恋に身を任せる。そんな孤独な歌が L' étranger です。

三浦 長い歌ですね。

中尾 歌うというよりは、語るという感じの強い曲です。律儀に韻を踏んでいて、古風な歌です。

三浦 救いようもなく暗い歌ですね。

中尾 そういつてしまえば元も子もないわけですが、2番目の歌 La vie en rose はその裏返しのようなもので、ここでは愛の喜びが歌われます。この歌からわかるように、フランスでは幸福はバラ色(ピンク)であらわされるのですが、ブラザーズ・フォーの有名な曲に Seven Daffodils というのがあつて、Daffodils は、白いのもありますが、seven golden daffodils とあるように黄金色になっています。大邸宅も買えないし、土地も持っていないという具合に始まる歌詞を見ると、この黄金色というのがよくわかる気がします。

三浦 まあ、ピアフの歌のように恋愛至上主義ではなく、ある意味リアリストの一面が覗いているんだと思います。ブラザーズ・フォーの歌には、社会的な広がりがあります。そして何よりも、自然の香りがします。The Green Leaves of Summer なんかをみればわかるのですが、それが郷愁と結びついている。我々日本人の感覚とも合致したものになっています。

中尾 確かに、シャンソンに描かれる「愛」にはある種の人工性が付きまといます。まあ、それが「芸」なのだと言ってしまうえば身もふたもないわけですが、受け入れられにくいと言えそうです。

三浦 最後に Take Me Home, Country Roads を選んでいます。これはどうしてですか？

中尾 もちろん、先生の持ち歌のリストにあつたということも大きいのですが、今までの流れの中で、自然ということテーマとした場合、どのような対照が英語の歌とフランス語の歌との間に浮かび上がってくるのだろうかと考えたわけです。

三浦 なるほど。

中尾 今回の季節、シャンソンの Les feuilles mortes は外せないとして、都会のちまちました自然と対比できるようなカントリーソングは何かと考えた場合、まあ、第一候補になるだろうということです。自然を描くことは、シャンソンには苦手なのだという当たり前のことに気づいたというわけです。



中尾 さてここから先は、山中先生にお聞きしたいと思います。今回、2回目のご登場ということになりますが、以前と異なる点は何ですか？

山中 三浦先生の方で何曲か用意してくださったのでそれに絡むことができるようにと少し歩み寄りました。しかし、シャンソンの王道ともいえる曲を何曲か入れることができたのは良かったと思っています。

中尾 具体的には？

山中 La vie en rose, Les feuilles mortes は、本当に広く知られた曲ですが、L' étranger (異国の人) の独特な語り歌いを味わってほしい。

中尾 ここでは外国人の船乗りと港の娼婦との一夜の遭遇が語られ、男は朝出てゆき、女はその思い出に浸るが、自殺した男の死体が港の近くで上がるという結末が描かれています。女は、朝、男に「俺についてこい」と言われるのを夢見ていたとありますから、誤解による悲劇ともとれますが、どうして Home というお題にこの歌を返されたのですか？

山中 娼婦でも家庭を夢見ていたんですね。そしてそれが叶わぬことも知っていた。船乗りの優しい眼差し、愛を求めているその眼差しに女は「家庭」を夢見ていたんです。Home がないことを言いたかった歌でもあります。この歌を歌ったダミアの声にはそれがよく伝わってきます。

中尾 シャンソンの全盛期は 20 世紀前半であり、それは 19 世紀から続く、都市化の時代です。田舎からパリやリヨンに沢山の人が出てきて孤独な都会生活を始める。そんな都市の徘徊者たちの、つまりボードレールのフラヌールなんですが、そうした人たちの詩や文学がこの時期の特徴と言ってよいと思います。シャ

ンソンもそれと呼応して、男と女を描く。家庭は描かない。

山中 そう簡単に一般化はできないと思いますが、家庭の中には歌うべきものがあまりない。歌は暗いものもいい。(笑) 真実は、悲劇やそれを越えた喜びの中にある、とは言えませんか？

中尾 ところがですね。時代は飛びますが、シャンソンがフレンチ・ポップになって以降そうでもない。サウンドも英米のポップ、ロックを取り入れて大きく変わってゆくのですが、家庭は、今や映画やシャンソンの中心テーマです。わたしも Michel Sardou の Je vole あたりで参戦したかったのですが、あまりにひどい歌声ゆえかありませんでした。

山中 100 年前の家族と今の家族とではずいぶん違うのでは？

中尾 それはあると思います。100 年前のきっちりした家庭と、かなりの部分が片親家庭、再構成家族(拡大家族)の今とは、かなり違う。家庭は歌われるべき理想となったのかもしれない。

山中 世界のアメリカ化とも関係しているのかな？

中尾 関係あるのかどうかわかりませんが、昔アメリカ人の英会話クラスに出ると必ず Home town はどこかと訊かれたのを覚えています。フランス語会話のクラスではあまり訊かれませんが、やはり、アングロ=サクソンの Home へのこだわりには、フランス文明とは大きく異なったものを感じます。

山中 「大草原の小さな家」ですね。この歌を含めて、20 世紀前半のシャンソンには数々の名曲があります。これを機会に親しんでいただけたらと思います。

中尾 今日はどうもありがとうございました。



入場無料、
来聴歓迎！

2017年11月

LANGUAGE・CAFÉ 5限の部 プログラム

日	月	火	水	木	金	土
			1 EC October Festivals and Holidays  Daniel Devolin	2 LS 三浦孝 山中哲夫 ジョイントコンサート	3	4
5	6	7 CF 日本の一側面、伝統を紹介する  Régis Olivero	8 EC Painting  Daniel Devolin	9	10 EC Student led presentation and discussion  Simon Sanada	11
12	13 EC Apps  Daniel Devolin	14 CF 日本の一側面、伝統を紹介する  Régis Olivero	15	16	17 EC Student led presentation and discussion  Simon Sanada	18
19	20 EC November Festivals and Holidays  Daniel Devolin	21 CF フランスの祭りや祭日  Régis Olivero	22 EC Apps  Daniel Devolin	23	24 EC Student led presentation and discussion  Simon Sanada	25
26	27 EC Identity Markers  Daniel Devolin	28 CF フランスの現状ダイアログとロールプレイ  Régis Olivero	29 EC November Festivals and Holidays  Daniel Devolin	30	LS = Language Café Special	

LANGUAGE・CAFÉ 昼休みの部 : English Café 月・火・水・金 中文茶座 火 張 筱平 Caf  fran ais 金 Olivero
Peter/Daniel/Michael/David/Simon/Kuniyoshi